

令和6年度 国立研究開発法人土木研究所「契約監視委員会」審議概要

1 日 時 令和7年5月30日(金) 9:30～11:30

2 場 所 (つくば)土木研究所 及び (札幌)寒地土木研究所

3 開催方法 つくば—札幌間でのテレビ会議

4 出席者 委 員 : 金井委員長、佐藤委員、島田委員、岡本委員、宮森委員
土研側 : 藤田理事長以下、関係役職員

5 議 題 (1)令和6年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
(2)令和6年度契約案件の事後点検について
(3)令和7年度調達等合理化計画(案)の点検について

6 審議の概要

(1)審議結果

- ① 令和6年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
令和6年度調達等合理化計画の自己評価結果については、妥当と認められる。
- ② 令和6年度契約案件の事後点検について
令和6年度契約案件(随意契約、新規建設コンサルタント業務における一者応札案件)について事後点検を行ったところ、特に問題は認められなかった。
- ③ 令和7年度調達等合理化計画(案)の点検について
令和7年度調達等合理化計画(案)については、妥当と認められる。

(2)審議内容(委員からの主な意見等)

- ① 令和6年度調達等合理化計画の自己評価結果の点検について
 - ・ 参加要件を緩和されたことや仕様書の明瞭化のための修正など、非常に努力されているということはよく分かったが、そのような参加要件の緩和や仕様書の明瞭化によって、入札者数が増えているのかどうか、緩和した際の効果などについても今後検証した方が、より良いのではないのかと思う。(事務局:今後、該当する事案について個別に応札状況の確認を行いたい。)
 - ・ 上期発注と下期発注で履行期間にどれほどの違いがあるのか、それぞれの履行期間の平均データがあれば、教えてもらいたい。(事務局:後日回答する。)
 - ・ 他の研究開発法人との比較が載っているが、この表で土木研究所よりも一者応札率が低い研究所にヒアリングに行くなど、対策としてどのような取組をしているのかなどを

調査する取組があっても良いのではないか。農林系では40%、30%という数字が目立つが、医学系は極端に一者応札が低い傾向なので、その辺りを踏まえ、勉強するというのも一つの方法かと思われる。(事務局:ご提案いただいた内容を踏まえ検討したい。)

② 令和6年度契約案件の事後点検について

(一者応札案件について)

- ・「カルバート試験体の解析業務」は昨年度も同様事案で一者応札だったが、その際の事後点検で講ずることとした今後の措置として、仕様書に英語表記を用いず、過年度業務の報告書の閲覧も可とし、かつ早期発注するなど、発注側としてしっかり対応をされていた。残念ながら今年度も一者応札になってしまったが、措置を実行し、やるべき工夫をしていたという点で改善がうかがえる。引き続き、一者応札の対策をいろいろ講じていくことが肝要。
- ・ アンケートの回答で仕様書の配付申請した理由について、「その他(配付資料には内訳書が掲載されていることから、今後の見積り作成の参考とさせていただきたい)」といった回答がある。アンケート調査については、ほとんどの場合は設問にチェックを入れるだけだと思うが、このような理由で資料請求する事業者が多いならば、アンケート項目に追加して分析していくことも検討してはどうか。(委員長:アンケート結果を確認、後日回答願いたい。)

③ 令和7年度調達等合理化計画(案)の点検について

- ・ 特段の意見なし

以 上